

平成24年11月19日

文部科学大臣 殿

大学等の設置者 (名 称) (所 在 地) (代表者名)	学校法人 京都産業大学 京都市北区上賀茂本山 理事長 柿野 欽吾 (記名押印又は署名)
大 学 等 名	京都産業大学

平成 2 4 年度国際化拠点整備事業費補助金
(グローバル人材育成推進事業) 交付申請書

国際化拠点整備事業費補助金交付要綱第 4 条第 1 項の規定により、次のとおり国際化拠点整備事業費補助金（グローバル人材育成推進事業）の交付を申請します。

プログラム名称(選定年度)	グローバル人材育成推進事業（タイプ B 特色型）（平成24年度）	
事 業 名 称	京都産業大学 グローバル人材育成推進事業	
国庫補助金交付申請額	1 8, 8 6 2 千円	
補助事業の目的・内容等	別紙のとおり	
補助事業の完了予定日	平成 2 5 年 3 月 3 1 日	
事業推進担当者	氏 名	所 属・職 名
事業推進代表者		
事業推進責任者		
会計事務担当者名	所属・職名	連絡先(電話番号、FAX番号、e-mailアドレス)

様式1（第4条第1項関係）

（別紙）

補助事業に要する経費		
補助対象経費の総額	補助金額(申請額)	自己収入その他の金額
①+②	①	②
18,862千円	18,862千円	0千円（内訳：）
補助対象経費	金額(千円)	積算内訳
物品費	8,335	【設備備品費】 7,915千円 【消耗品費】 420千円
人件費・謝金	8,319	【人件費】 8,319千円
旅費	518	【国内旅費】 518千円
その他	1,690	【印刷製本費】 1,445千円 【通信運搬費】 57千円 【その他（諸経費）】 188千円
合計①+②	18,862千円	
補助事業の目的・必要性		
（全体） 本補助事業の目的は、「グローバル社会で活躍する理系産業人の育成」である。その人材像は、具体的に次の4つの要素からなる。第一に「チャレンジ精神と主体性を持つ若者」、第二に「専門領域に関する確かな知識を持つ若者」、第三に「確かな語学力と異文化受容力を持つ若者」、第四に「自らの存在と母国に自信と誇りを持つ若者」である。 その人材像を達成するために、本取組みでは3つの柱からなる「理系産業人養成プログラム」を構築する。第一に「理系3学部と外国語学部の連携による異文化対話能力を育てるプログラム」、第二に「学内外の学びの融合によるチャレンジ精神を植えつけ、主体性を育てるプログラム」、第三に「確かな技術を持つローカル企業のグローバル化に貢献する志を育てるプログラム」である。 日本の企業行動を見ると、アジア諸国とのつながりが圧倒的に高まっている。本取組みでは、育成すべき人材像に掲げた「チャレンジ精神と主体性を持つ若者」を育てるために、アジア諸国を対象とした産学協働教育に着目し、その開発に当たっては同窓会組織との連携を一層進めていく。グローバル化した世界の中で、日本が揺るぎない地位を維持していくためには、一握りの指導者や企業人だけでなく、規模は小さくとも、確かな技術力を持った中小企業や幅広い民間レベルの国際交流が必要不可欠である。本補助事業は、本学の産学協働教育の蓄積を活かし、グローバル中堅層の拡充の必要性に応えることができる。 本補助事業では、学士課程教育における教学マネジメントを確立する上で不可欠となる教育重点型教職員を育成することも目的であり、従来の教員と職員という二分法にとらわれない職域の開拓は、今後多くの大学への波及効果が見込めるものである。米国の大学では、教員と職員の境界に位置する専門職が大学改革の推進力になっており、本取		

組みは「日本型教育専門職」のパイロット・モデルを示すことができる。

これらのことより、理系産業人だけにとらわれず、本事業で得られた知見をもとに、専門性を人文、社会科学系へと変化させていくことで、新分野の産業人育成に拡張できるプランでもあり、全ての分野におよぶグローバル人材育成推進の取り組みは、本学の建学の精神をまさに具現化するものであり、これは本学にとって永続的に取り組むべき事業である。

（本年度）

学長室に「グローバル人材育成推進準備室」を設置する。また、学長の指名でプロジェクト・メンバーを選出した「グローバル化推進プロジェクトチーム」及び実働作業部会のワーキンググループを設置する。「学長のリーダーシップ」が発揮できるチームを発足することで、そこに人材の集中配置を行い、迅速に大学のグローバル化を進める。

グローバル化推進プロジェクトチームでは、迅速な事業推進のため事務処理に精通した職員を採用し、処理体制を構築する。

グローバル・ビレッジの設置準備においては、他大学のラーニング・コモンズ、グローバル・ビレッジ、図書館に関する資料収集だけでなく、学内で活動する学生スタッフ（学生FDスタッフ、学生ボランティア、学生ファシリテータ、ピア・サポーター等）に普段のミーティングの様子についてヒアリングを行い、これらの情報について分析した結果を、ワーキンググループやプロジェクトチームに報告する。

教学面においては、教学センターの教職員を中心に、科目ナンバリングを導入している先進事例の調査や、全学共通教育センター、外国語学部、文化学部で開講されている英語科目のシラバスを精査し、体系化の基礎調査を行い、次年度の準備を行う。

また、国内の海外拠点を持つ大学を調査し、拠点設置後の運営方法、教育施策への活用拠点の展開方法についての国内大学の動向について整理し、ワーキンググループ及びプロジェクトチームにて報告会を行う。この報告内容について、同窓会にも周知し、同窓会組織を活用したアジア諸国の拠点形成の準備を開始する。

理系学生のインターンシップ受入れ先を開拓することにおいては、職員を国内外のグローバル先進企業に派遣または調査し、同時に、先進な産学協働教育を行っている大学のコーオプスタッフを訪問または招待し、参加者の見識を深め、次年度につなげていく。

大学のグローバル化に関する評価点検報告書については、教育支援研究開発センター高等教育調査・研究ワーキンググループが中心となり作成、また、現状の学部の授業アンケートについて、ディプロマ・ポリシーの視点を導入し、平成25年度春学期から、当該アンケートの運用を行う準備に係る。

帰国留学生に対しては、留学に関する事前事後のフォローを行いながら、帰国後にTOEIC受験を促し、留学における語学力の向上度合いの把握を強化していく。

平成24年度は、本格的に開始を目指す来年の準備作業などに費やし、体制の構築や基礎調査、事前協議を中心に行う。

本年度の補助事業実施計画

事業を実施するにあたってのスケジュールを記載してください。

24年度の補助事業の目的を達成するため、

- ① 10月末から 事務組織体制・プロジェクトチーム・ワーキンググループの構築準備
- ② 10月～ 教育及び事務支援職員の募集・雇用 10月募集、10月以降の雇用、事務機器配備
- ③ 10月開始 グローバル・ビレッジの設置準備【プロジェクトの立ち上げ、場所の特定、機器・什器選定、導入配備、運用】
- ④ 10月～ 毎月1回程度 ワーキンググループ、プロジェクトチームの開催、方向性の確認
- ⑤ 11月～3月 科目ナンバリング調査（他大学への調査、関東、東海、九州地区の模範となる大学の調査）・英語科目のシラバス精査
- ⑥ 10月～3月 海外拠点を有する大学を調査
- ⑦ 11月～3月 国内のグローバル企業への訪問（理系学部のインターンシップ受け入れ企業の調査）
- ⑧ 2月以降 大学のグローバル化に関する評価点検報告書の作成
- ⑨ 1月～3月 ディプロマ・ポリシーの視点で学部のアンケートを改訂
- ⑩ 11月～3月 特定テーマに関連した科目を相互に関連づけるシラバス構築の準備
- ⑪ 11月～3月 帰国留学生に対する事前事後のフォローアップ

次年度以降の予定スケジュール

【平成 25 年度】

- ① 入学生へのプレイスメントテストの必修化 (TOEIC) 【H25-P35-本構想 - 4 行目】
- ② 1 年次生への TOEIC 試験の義務化 【H25-P35-本構想 - 18 行目】
- ③ モバイル対応自学自習英語システムの開発 【H25-P21-本構想 - 35 行目】
- ④ 東アジア・東南アジア等海外拠点の調査、協定校との調整 【H25-P24-本構想 - 27 行目】
- ⑤ 国内外ネットワーク (理系企業を中心) の構築 【H25-P24-本構想 - 27 行目】
- ⑥ 海外の IS 先企業開拓・協定校の調査など 【H25-P25-本構想 - 8 行目】
- ⑦ ラーニング・コモンズ (H25-P25-本構想 - 15) グローバル・ビレッジの設置・留学生との交流促進 (留学生支援) 【H25-P6-23 行目】
- ⑧ 教育情報の段階的公開 【H25-P22-本構想 - 2 行目】
- ⑨ グローバル・ジャパン・プログラムの充実 【H25-P36-本構想 - 14 行目】
- ⑩ 短期語学研修制度の時期・経費などの改善 【H25-P32-本構想 - 18 行目】
- ⑪ 成績評価の基準の可視化 【H25-P21-本構想 - 38 行目】
- ⑫ 海外アドバイザー 【H25-P37-34 行目】
- ⑬ 外部評価委員会の開催 【H25-P37-34 行目】
- ⑭ 科目ナンバリングの開始 (外国語学部予定) 【H25-P21-本構想 - 4 行目】
- ⑮ ポートフォリオの開発・パイロット導入 【H25-P40-8 行目】
- ⑯ 奨学金制度の充実 【H25-P32-本構想 - 36 行目】
- ⑰ 教育専門職員等の雇用 9 名 【H24-P29-本構想 - 14, P22-本構想 - 35, P19-本構想 - 33 行目】
- ⑱ 事務組織体制の構築・グローバル化推進室の設置 【H25-P38-21 行目】
- ⑲ 事務職員の外国語力養成 【H25-P23-本構想 - 38 行目】

【平成 26 年度】

- ① 入学生へのプレイスメントテストの必修化 (TOEIC) 【H25-P35-本構想 - 4 行目】
- ② 1 年次生への TOEIC 試験の義務化 【H25-P35-本構想 - 18 行目】
- ③ モバイル対応自学自習英語システムの開発 【H25-P21-本構想 - 35 行目】
- ④ 東アジア・東南アジア等海外拠点の調査、協定校との調整 【H25-P24-本構想 - 27 行目】
- ⑤ 国内外ネットワーク (理系企業を中心) の構築 【H25-P24-本構想 - 27 行目】
- ⑥ シラバス (学修支援書) ・履修登録システムの改善 【H26-P21-本構想 - 30 行目】
- ⑦ 教育専門職員等の雇用 【H25-P29-本構想 - 14 行目】 ,
- ⑧ 外部評価委員会の開催 【H25-P37-34 行目】
- ⑨ 科目ナンバリングの開始 【H25-P21-本構想 - 4 行目】
- ⑩ ポートフォリオの開発 【H25-P40-8 行目】
- ⑪ 奨学金制度の充実 【H25-P32-本構想 - 36 行目】

【平成 27 年度】

- ① 入学生へのプレイスメントテストの必修化 (TOEIC) 【H25-P35-本構想 - 3 行目】
- ② 1 年次生への TOEIC 試験の義務化 【H25-P35-本構想 - 18 行目】
- ③ モバイル対応自学自習英語システムの開発 【H25-P21-本構想 - 35 行目】
- ④ 東アジア・東南アジア等海外拠点の調査、協定校との調整 【H25-P24-本構想 - 27 行目】
- ⑤ 国内外ネットワーク (理系企業を中心) の構築 【H25- P25-39 行目】
- ⑥ 理系用短期留学プログラムの設置 【H27-P24-本構想 - 33 行目】
- ⑦ 外部評価委員会の開催 【H25-P37-34 行目】
- ⑧ 科目ナンバリングの開始 【H25-P21-本構想 - 4 行目】
- ⑨ ポートフォリオの開発 【H25-P40-8 行目】
- ⑩ 奨学金制度の充実 【H25-P32-本構想 - 36 行目】

【平成 28 年度】

- ① 入学生へのプレイスメントテストの必修化 (TOEIC) 【H25-P35-本構想 - 3 行目】
- ② 1 年次生への TOEIC 試験の義務化 【H25-P35-本構想 - 18 行目】
- ③ モバイル対応自学自習英語システムの開発 【H25-P21-本構想 - 35 行目】
- ④ 東アジア・東南アジア等海外拠点の調査、協定校との調整 【H25-P24-本構想 - 27 行目】
- ⑤ 国内外ネットワーク (理系企業を中心) の構築 【H25- P25-39 行目】
- ⑥ 外部評価委員会の開催 【H25-P37-34行目】
- ⑦ 科目ナンバリングの開始 【H25-P21-本構想 - 4 行目】
- ⑧ ポートフォリオの開発 【H25-P40-8 行目】
- ⑨ 奨学金制度の充実 【H25-P32-本構想 - 36 行目】

⑩ グローバル人材推進事業最終報告会【H28-P37-43 行目】
